氏　　名	東尾　公子 （ひがしお　きみこ）
学 位 の 種 類	博士（看護学）
学 位 授 与 番 号	甲博看第 5 号
学位授与年月日	令和 4 年 3 月 2 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学 位 論 文 題 名	父親のメンタルヘルス維持をめざした出産前後教育で活用する父親役割を促す教育支援ガイドの開発 (Development of an Educational Support Guide to Be Used by Nurses in Perinatal Education, Aimed at Promoting Paternal Involvement and Preserving Paternal Mental Health)
論 文 審 査 委 員	（主）　教授　荒木　孝治 教授　佐々木　綾子 准教授　草野　恵美子

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

<<緒言>>

現在、少子化によって親自身が乳幼児に接した経験が少ないことに加え，核家族化で家庭の養育力が低下し，地域支援が希薄になることで育児の孤立化がおこるなど，親は子どもへのかかわり方に悩みや不安を抱えメンタルヘルスに影響を及ぼす状況の中で育児を行っている．育児をする父親の課題として，育児力は低下しているにもかかわらず育児意識の高まりによって積極的に育児家事を行っており，一方で仕事との両立への重圧に伴うストレスで 2 割弱がうつ傾向にあると分析されている．母親とは異なり，父親は子どもの出生後に実際に父親役割をせざるを得ない状況に直面するため，うまく対応できずメンタルヘルスが悪化しやすい状態にあると考える．

現在，少子化，核家族化が進み，夫婦単位で行う育児へとかわってきており、親役割に関する教育支援の必要性が高まってきている．また，第 5 次男女共同参画基本計画では男性の子育て参画促進に向けて，父親になる男性を妊娠期から側面支援することが具体的取り組みとして提示され，妊娠期からの父親への教育支援が看護者には期待されている．しかし，父親を主においた一般化された教育支援に関するガイドラインはなく十分に整備されていない．生後 1 か月から半年までの期間は分娩施設から地域へと支援が移行する時期で，親の育児不安が高まる期間でもあり，妊娠・出産・子育ての切れ目とならないよう乳児期前半は母親だけでなく父親への分娩施設の看護者の十分な教育支援が必要であると考える．

<<目的>>

本研究は，父親のメンタルヘルス維持をめざした出産前後教育で看護者が活用する父親役割を促す教育支援ガイドを開発することを目的とした．第 1 研究は，父親教育のための看護介入内容や方法，効果を明らかにし，妊娠中から乳児期における第 1 子の父親役割を促す看護介入を行う際の基礎資料とすることを目的とした．第 2 研究は，母親の妊娠中から子どもが乳児期前半にある父親が，父親役割に伴いメンタルヘルスを維持し，いかなる困難な体験をしているのか，また父親が求める教育支援ニーズを明らかにすることを目的とした．第 3 研究は，看護者が出産前後教育で活用する父親のメンタルヘルスの維持をめざした父親役割を促す教育支援ガイドを作成し，有識者による適切性の検証を行うことを目的とした．

<<方法>>

第 1 研究は，文献研究で国内外の 14 論文を分析した．

第 2 研究は，研究対象を年齢は 20 歳以上，初めて乳児を育てる日本人の父親 15 名とし，インタビューガイドを用いて半構造化面接を行った．

第 3 研究は，研究対象として産科診療所または産科病棟で勤務し，経験年数 5 年以上の助産師を有識者とした．作成した出産前後教育で看護者が活用するための教育支援ガイドに対する質問紙調査を行った．研究対象者はスノーボール法で選定した．有識者 26 名に調査票を用いて適切性の検証を行い，有効な回答が得られた 23 名を分析対象とした．

≪結果≫

第 1 研究では文献研究の結果，父親教育に関する看護介入は，父親の自覚を促す支援，産後の母親に対する理解とサポートを促す支援，父親の育児行動を促す支援，子どもとのかかわりを促す支援に分類され，これらは父親役割を促す支援であった．国内文献では，父親の自覚を促す支援，育児行動を促す支援は妊娠期から始め，母親との関係性を高めることで効果が検証されていた．国外文献では，育児行動を促す支援の中で，父親のメンタルヘルス支援とオンラインによる方法が効果あることが明らかとなっていた．父親への教育は，乳幼児期の父親役割を促す支援として導き出され，親への移行期は継続支援や父親の教育支援ニーズに応じた内容を構成していくことも必要であることが示唆された．

第 2 研究では，母親の妊娠中から子どもが出生後乳児期前半の期間における父親役割に伴う困難として，【子どもとのかかわり初期の困難】【子どもの泣きに対する困難感と対処】【子どもとのかかわり初期段階を乗り越えて生じる困難】【妻のサポートに伴う困難】【育児生活に伴う心

身への負担感】という 5 カテゴリーが抽出された．また，産前産後にメンタルヘルスを維持するために父親が希望する支援として，【育児知識・技術獲得に関する支援】【母親との良好な関係づくりのための支援】【父親自身のメンタルヘルス維持への支援】という 3 カテゴリーが抽出された．これら希望する支援は，父親役割に伴う困難な体験に基づいた内容であった．本研究結果で得られた父親の教育支援ニーズと現在行われている父親支援の内容には相違があり，現行の支援内容に追加あるいは修正し，さらなる父親への教育支援として検討していく必要があることが示唆された．

第 3 研究では，作成したガイドの教育支援内容，教育支援場面，親向け資料に対して概ね適切性が評価された．ガイドの完成度を高めるために，平易な用語の使用，母乳育児中の父親の役割について追加，育児生活に対してより現実味を追加するといった有識者の意見があった．さらに，ガイドを活用した教育支援の普及に対する示唆が得られた．

≪結論≫

妊娠中から子どもが乳児期前半にある父親の困難な体験と教育支援ニーズをもとに内容を構成した教育支援ガイドは，メンタルヘルス維持をめざしながら父親役割を促す教育支援のために出産前後教育で看護者の活用が期待できる．開発した教育支援ガイドを活用して看護者が妊娠中から子どもが乳児期前半にある父親へ教育支援を行うことで，現在の母親を主においた出産前後教育の改善をはかることができ，ガイドとしては新規性があり，看護者にとって父親教育への指針となり得ると考える．

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は父親のメンタルヘルス維持をめざした出産前後教育で看護者が活用する父親役割を促す教育支援ガイドを開発することを目的としたものである．

第 1 研究は，妊娠中から乳児期における第 1 子の父親役割を促す看護介入を行う際の基礎資料を得るための文献研究（国内外の 14 論文が分析の対象）である．父親教育に関する看護介入は，父親の自覚を促す支援，産後の母親に対する理解とサポートを促す支援，父親の育児行動を促す支援，子どもとのかかわりを促す支援の4つに分類された．また，育児行動を促す支援においては父親のメンタルヘルス支援の必要性やオンラインによる方法も効果のあることが明らかとなった．第 2 研究では，母親の妊娠中から子どもが乳児期前半にある父親が，父親役割に伴いメンタルヘルスを維持し，いかなる困難な体験をしているのか，また父親が求める教育支援ニーズを明らかにすることを目的として，初めて乳児を育てる日本人の父親（15 名，年齢は 20 歳以上）を対象とした半構造化面接を行ない，データから父親役割に伴う困難として，【子どもとのかかわり初期の困難】【子どもの泣きに対する困難感と対処】【子どもとのかかわり初期段階を乗り越えて生じる困難】【妻のサポートに伴う困難】【育児生活に伴う心身への負担感】の 5 カテゴリーが抽出され，また，産前産後にメンタルヘルスを維持するために父親が希望する支援として，【育児知識・技術獲得に関する支援】【母親との良好な関係づくりのための支援】【父親自身のメンタルヘルス維持への支援】の 3 カテゴリーが抽出された．　第 3 研究では，看護者が出産前後教育で活用する父親のメンタルヘルスの維持をめざした父親役割を促す教育支援ガイドを作成した．有識者（経験年数 5 年以上の助産師）23 名を対象にした質問紙調査の結果，同ガイドには適切性があるとの結果を得た．

本研究の独創性は出産前後での父親が抱えるストレスや育児参加での父親のメンタルヘルスへの影響も鑑みながら，父親役割を促進する為の教育支援に取り組んだ点にある．特に第 2 研究において，母親の退院指導時に協力の得られた父親へのインタヴューを通し，出産前後の心配事，気遣い（パートナーとの関係の持ち方を含む），予想のつかなかったストレス，更には，受けたいと思う支援のニーズについてデータを収集し，その根拠資料に基づいて教育支援用のガイドを作成したことは研究成果の応用面において意義深く，また，結果の今後の発展性が期待できる．

以上により,本論文は本学大学院学則第 13 条第 3 項に定めるところの博士（看護学）の学位を授与するに値するものと認める．

（主論文公表誌）

Health, 13(8), 789-811, 2021.